

コード	名称	区分	コード		名称	
			01	10		
事業名	858 公民館事業経費	会計	01	一般会計		
			10	教育費		
			05	社会教育費		
基本	33 だれもが生きがいを持てる機会をつくる	目	05	公民館費		
			444	公民館活動経費		
			51	公民館事業経費		
担当部課	コード	451400	担当者	中 義晴	連絡先	45 - 9122 (内線) 444
	名称	いがまち公民館	氏名			

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	公民館教室受講生及びサークル連絡協議会(やまなみ文化協会)会員及び公民館利用者。	※対象件数
成果(どうする)	公民館教室の開設やサークル団体活動が活発化することにより、地域住民の生涯学習意欲の向上につながる。	
根拠法令・要綱等	社会教育法	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H22 事業内容	・公民館教室を開設(8教室)。また、やまなみ文化協会に補助金を出して支援した。 ・公民館教室・・・ア・ラ・カルト10回、朗読勉強会10回、男たちのピアノ教室10回、バードカービング15回、気分爽快体操タイム10回、すぐ役立つ筆ペン教室10回、絵本の時間11回、親子人権教室1回。 ・活動の成果の発表の機会として、公民館教室の受講者は3月19日に「摘草発表会」を実施。やまなみ文化協会は、10月23・24日に「いがまち展覧会」を他団体とともに主催し、サークル会員の作品を出展した。11月14日には、「やまなみ文化祭」を開催し、サークル会員が出演した。また、2月12日にはやまなみ文化協会主催による「人権講演会」を開催し、バンド「ゆりね」による人権トーク&コンサートを行った。	
社会情勢の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)		運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)	
1 建設用地		1 運営主体	
2 建設面積(延床面積)		委託先	
3 規模・構造		2 配置人員	人
4 総事業費	千円	3 年間運営費	千円
		4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
公民館教室	公民館教室	室	目標 8	目標 8		
			実績 7	実績 8	8	8
いがまち展覧会	いがまち展覧会	回	目標 1	目標 1		
			実績 1	実績 1	1	1

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
受講生(参加者数)	受講生(参加者数)	受講者数	人	目標 160	目標 160	180	180
				実績 149	実績 175		
いがまち展覧会入場者数	いがまち展覧会入場者数	入場者数	人	目標 1500	目標 1500	1600	1600
				実績 1500	実績 1500		

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
		1,979	1,772	1,387	1,572
Aの財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	1,979	1,772	1,387	1,572
	事業投入人件費(B)	0.3人	2,160	0.5人	3,600
	フルコスト(A)+(B)	4,139	5,372	4,987	5,172

事務事業の評価(Check)

必要	判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)	
	○	○		
必要	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業			
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業			
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業			
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業			
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業			
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業			
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業			
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○		
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業			
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れている事業				
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】				
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業				
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】				
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○	・住民の意向、要望を反映した教室は応募者が多く、参加者の満足度も高い。	
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。	○		
	サービス水準や対象を見直す余地がある。			
達成度	当初設定した計画を	100%	実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無	無		
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】			
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。			
	基本施策の中で類似・重複する事業がある。			
	【事業名】			
	受益者負担を求めることができる事業である。			○
	全体コストにおける負担構成は適正である。			○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。			

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	本年度に23年度以降、公民館教室については、男性が参加しやすい教室や男女がともに参加していく教室や、また人権に関する教室など検討していく余地がある。また、親子を対象とした教室なども検討する。
昨年度の取組状況	【詳細】 ・公民館教室(8教室) 出席者延べ1,007人。・公民館教室発表会(摘草発表会 2月19日) 出席者30人、いがまち展覧会(10月23・24日) ・やまなみ文化祭(11月14日) 人権講演会(2月12日) ・23年度は新たに子どもを対象にした「こども体験教室」を実施する。・人権教室は応募者がなかったが、これに代わる人権関連教室を実施したい。・23年度の教室の受講者も女性の参加者が多く、男性は大変少ない。24年度以降も男性が参加しやすい教室を検討していく。

担当課長氏名 中 義晴

担当課長氏名	中 義晴
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 ・公民館教室は、地域住民の意向、要望を考慮し参加しやすい教室を考えていく。 ・他地区の公民館教室の紹介、案内をPRしながら伊賀市全体での受講を勧めていく。 ・3年間続いた教室に代わり新しい教室を実施していく。 ・文化サークル連絡協議会への支援をしていくとともに、生涯学習の機会と場所の提供をしていく。
現時点における課題、その他	・今年度みんな集合!「こども体験教室」を開設。伝統文化、料理、工作、環境学習を計画。子どもたちが楽しく安全に体験活動が行なえるよう取り組んでいく。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	・課題としていた子ども向けの教室はH23年度に「こども体験教室」を開設した。親子人権教室は今年も募集0人であったが、これに代わる人権に関する学習会を考えたい。 ・どの教室の受講生もほとんどが女性である。男女共同参画を推進していくためにも、今後、男性も参加しやすい教室の検討をしていく必要がある。 ・サークル活動等に関わっていく地域住民は今後、増えていくと思われるため、生涯学習活動が停滞することのないように活動の場を提供していくと共に、支援をしていく必要がある。